

中国語の指示詞“那”的機能分析

——観念指示という立場から——

高 范

一、問題提起

次の表現例(1)～(4)において、二重下線で示した人称代名詞・指示詞などの成分は日本語では直接的に訳出されないこともあって、日本人の中国語学習者にとって、理解の難しいものの一つとなっている。

- (1) 做为一个男人来说，不要让人一看你就不可信。《话题交际》

【二人称代名詞】

[一人の男として、人があなたを見て「(この人は)信用できない」と思わせてはいけない。]

- (1)' 不要让人一看就不可信

- (2) 我要喝他一扎啤酒。

【三人称代名詞】

[僕は生ビールを飲むぞ。]

- (2)' 我要喝一扎啤酒

- (3) 再说这洋人的脾气稟性咱也不摸门，将来女儿受气怎么办？《话题交际》

【指示詞】

[それにこの外人の性格は我々にも分からぬし、そのうちもし娘がいじめられたらどうしよう。]

- (3)' 再说洋人的脾气稟性咱也不摸门

- (4) 那种要成为新娘的喜悦不自觉地从眉梢和举手投足中滲出来。

《我们都是陌生人》

【指示詞】

[その直に花嫁になるという喜びが無意識のうちに眉尻と一挙手一投足から滲み出ている。]

(4)' 要成为新娘的喜悦

(1)～(4)の表現例において、二重下線の付いている(1)“你”、(2)“他”、(3)“这”、(4)“那种”がなくても統語的には成立するが、その場合、表現例(1)'～(4)'に表されているニュアンスとは必ずしも一致するわけではない。

言語表現は、形式が異なれば意味も異なるというのが原則であり、知的意味は等しくてもニュアンスは異なる。本稿は、表現例(1)～(4)'の表現において人称代名詞や指示詞の有無により表現上どのような差が生じるのか、とりわけ表現例(3)、(4)の指示詞の場合について、観念指示の立場から考察するものである。

二、比喩表現に現れる“那样”的必要性

現代中国語において、指示詞を伴う比喩表現はしばしばみられる(傍点は引用者による)。

(5) 一切都像梦，像梦那样变幻着。《青春之歌》

[すべてが夢のようだ。夢のように変幻している。]

(6) 你说，你真想像伞那样能为我遮风挡雨。《玻璃心的日子》

[あなたが言いました、雨風を防いでくれる傘のようになりたいと。]

表現例(5)に用いられている譬える物の“梦”と譬えられる物の“一切”の間には「常に変幻する」という共通点がみられる。表現例(6)の“你”は譬える物の“伞”と同じような役割(私を守る)を果たしたいと言っている。牧野 1993 は「エピソード記憶指示では、常に“那”が用いられる」と指摘している。¹ エピソード記憶指示に共通する特徴の一つは、話し手と聞き手が指示対象を共通理解として捉えていることであり、つまりそれは以前話題になったことである(少なくとも話し手はそう認識している)。この点から見れば、比喩に用いられる指示詞はまさにこのエピソード記憶指示の延長であることができる。

また、高范 2006:125 では比喩表現に用いられている“那样”を非指示詞“一样”に置き換えることができると指摘したが、その相違については言及していない。本稿ではまず

¹ 牧野 1993 は次の表現例における“那”的ような用法をエピソード記憶指示としている。

周: 大叔, 我是来给你送钱的。这是五千, 是上次那批货的。

賴: 你放在那儿。

[周: おじさん、ぼくはお金を払いに来たんですよ。5千円、こないだの品の金ですよ。賴: そっちへ置いてとけ。] (牧野 1993 : 103)

そのことについてみていくこととする。

コミュニケーションを円滑に遂行させるためには、伝達する情報をいかに相手に適切に伝え、内容をいち早く理解させるかという、話し手の表現能力のほかに、聞き手が把握している情報量に対する予測も重要な要素となる。

ある事態(譬えられるもの)の説明に、これと類似したもの(譬えるもの)を援用して表現する際、両者の間に共通点、または類似点が存在することは比喩表現における必須の条件である。表現例(7)は“她”と“我姐姐”の間に「私の面倒を見てくれる人」という共通点があるからこそ比喩表現として成立するのである。

(7) 她像我姐姐那样照顾我。

[彼女は姉のように私の面倒をみてくれる。]

(7)' 她像我姐姐一样照顾我。

「妹の面倒を見る姉」に対するイメージは人々の頭の中にはほぼ共通して存在している。表現例(7)'に比べ、表現例(7)の方には聞き手の想像を膨らませ、各人の頭の中のイメージをよみがえらせる表現効果がある。次に、表現例(8)と(8)'を比較しながらみてみよう。

(8) 她像一个已经彻底无依无助的人那样, 回到父母的身边……

《我们都是陌生人》

[彼女は寄る辺がまったくなくなった人のように、両親の元に戻ってきた…]

(8)'? 她像一个已经彻底无依无靠的人一样, 回到父母的身边。

外で頼りになるものがなくなれば父母のいる家へ帰ろうとする心理は、子供から大人まで共通して持っているものである。表現例(8)において、頼りを完全に失った“她”(彼女)も同じように“父母的身边”(両親の元)に戻ってきた。同じような状況の下におかれる人が取るべき行動への連想を“那样”を用いることによって呼び起こし実現化しているのである。それに対して、“像……一样”(まるで…のようだ)の構文が用いられている表現例(8)'の場合は、類似性を求める“像”との組み合わせには違和感が感じられる。²一方、次の表現例(9)'が非文となっているのは何故であろうか。

(9) 每栋房子都有十余套公寓, 彼此交错间隔……不像普通的公寓那样, 昂首挺

² 単文として成立する“她像一个已经彻底无依无靠的人一样”が、“回到父母的身边”的修飾成分になる場合、違和感を感じるインフォーマントが少なくなかった。修飾成分となる場合は、“跟(与)……一样”的ほうがより相応しく思われる。

胸，或平坦的一览无余的样子。 (同上)

[一つの棟の中に十世帯余りが入っていて、棟と棟が交差しており調和が取れている…普通のマンションのように一棟だけが高く聳えていたり、棟と棟が並列しているのではない。]

(9) *不像普通的公寓一样，昂首挺胸，或平坦的一览无余的样子。

一般のマンションに関するイメージはある程度人々の脳裏にできている。それは町の中に聳えている高層ビルであったり、隣接して何棟かが立ち並んでいる建物であるという一種の言語外知識に基づくものである。表現例(9)の“那样”による聞き手の言語外知識に対する喚起は、表現例(9)'には現れていない。“像……一样”は否定副詞“不”を用いることによって、完全否定となり、この組み合わせが適切ではなくなるのである。従って、比喩表現に用いられている“那样”を非指示詞“一样”に置き換えることが可能なのは、否定以外の場合に限られることとなる。例えば、次の表現例(10)は一連の比喩が並んだ“那样”によって、参照物(黄昏のやまぶき色、新月が放つ神秘的な光、岩のざらざら感、蓮花びらのような滑らかさ)を利用して読者に連想させながら、男女二人の雰囲気を描写している。

(10) 一个如同傍晚那样，散发着黯淡的金黄，一个如同新月那样，放射着幽蓝的银白；一个像岩石那样的粗砾，一个像白莲花瓣那样滑嫩。(同上)

[一人は黄昏のように薄い金色を漂わせ、もう一人は新月のように冴えた銀色を漂わせている。(肌は)一人は岩のようにザラザラとしており、もう一人は白いハスの花びらのようにすべすべとしている。]

(10)' 一个如同傍晚一样，散发着黯淡的金黄，一个如同新月一样，放射着幽蓝的银白；一个像岩石一样的粗砾，一个像白莲花瓣一样滑嫩。

有限のことばを用いて無限の物事を表現するには工夫が必要であり、そういう工夫が言語の表現力であり、ことばのあやでもある。表現例(10)の“那样”を表現例(10)'のように“一样”に置き換えると、統語的には成立するが、“如同……那样”と“……那样”によって作り上げられた豊かな想像空間が表現例(10)ほどは感じられなくなってしまう。また、次の表現例(11)は、彼女は初めて見た名作に感銘を受け涙がぼろぼろこぼれてきて、弟の注意に全く気づかなかった場面であるが、この場合、やはり物事の類似性による連想・推測などが不要となるため、指示詞“那样”を用いるのが困難となる。

(11) (弟弟牵着姐姐的裙子低低地提醒她)

她像是根本没听见一样。 《我们都是陌生人》

[(弟は姉のスカートの裾をひっぱりながら小さい声で姉に注意をしたが)彼女
はまるで聞こえていないようだった。]

* 她像是根本没听见那样。

以上の考察から、比喩表現に指示詞“那样”が用いられるのは何ら理由のないことではなく、言語外知識を生かす手段の一つとして使用されているものであるがわかる。

三、副詞的な用法

呂叔湘 1992:230 は“……指示性状的程度或动作的样式，通常用这么和那么，但间或也有就用这和那的，往往有夸张的语气。”と述べている。

(12) 想着迎头儿……叫的‘桂姨’那甜，如今……³ (呂叔湘 1992 : 230)

[この前…「桂おばさん」とうまい呼び方をしていて、いま…]

(13) 吃的那带劲儿！

[なんと美味しそうに食べているんだ]

表現例(12)と(13)“那”的はこの場合、程度を表しており、“特別”、“非常”、“极了”などの程度副詞を用いて、(12)' a, b と(13)' a, b のように置き換えることも可能である。

(12)' a. 叫桂姨叫的特别／非常甜

b. 叫桂姨叫的甜极了

(13)' a. 吃得特别带劲儿

b. 吃得非常带劲儿

表現例(12)と(12)' の差異は、比喩表現と指示表現との関連性を用いて説明することができる。高苑 2004:23 では「中国語の指示代名詞の“这”系は常に現場指示に用いられ、

³ この表現例は呂叔湘 1992:230 では指示表現の部分しか引用されていないため、文全体の意味としては把握しにくいと考え、その指示表現の前後の表現をここで補足しておく(加点は筆者による)。

“想着迎头儿我们使着你，只推不得闲，‘爹使我往桂姨家送银子去哩！’叫的桂姨那甜！如今她败落了来，你主子恼了，连你也叫她淫妇来了。(《金瓶梅》第二十一回)[この前私たちが君を使おうとすると、君は忙しいと言い訳をし、「ご主人様の命令で僕は『桂おばさん』のところにお金を届けに行かされているところなんだ」と言った。『桂おばさん』なんてうまい呼び方をしていてね。いま、彼女は落ちぶれてしまって、君のご主人様も腹を立てるし、君までも彼女のことを『娼婦だ』と言いつ始めたんだね。]

特定されている指示対象を指示する働きをしている。これに対し、“那”系は非特定的な指示対象をも指示する。比喩表現に現れる間接的な指示対象は通常特定されにくいため、指示対象の特徴を表現する場合には“那”系が用いられる」とした。例えば、下の表現例(14)の場合、たとえ目の前に羊がいたとしても、“*像羊这么驯服”と表現することはできない。

- (14) 母亲属羊。像羊那么驯服，完全被父亲所 “统治”。 《父亲》
[母は未年だ。だから、羊のように従順で、父に完全に「支配」されている。]

何故なら参照物(間接的な指示対象)である“羊”がおとなしく、従順であることは誰もが知っているからである。つまり、参照物に対するイメージ、或いは認識などはすでに言語外知識として人の頭脳にインプットされているため、指示詞の指示或いは代用機能を越えて、一つの形式化した用法として使われているのである。

先にみた表現例(12)は表現例(14)のように直接比喩表現を用いた形ではないものの、相手の認識に依存する形をとっている点では同様の原則が働いているということができる。そのことは、次の表現例(15)についても同様である。

- (15) 明吵嘴哭了，大妈一进来，又装没事人。都不知道你什么时候擦的泪，那熟练那专业。 《刘慧芳》
[明らかに口喧嘩をして泣いていたのに、おばさまが入ってきたら、まるで何ごともなかったようなふりをして。あなたがいつ涙を拭いたのかも分からなかったわ。
よく手なれたもので、プロ並みだ。]
→ 真熟练、真专业

敢えて程度副詞“特別”、“非常”、“真”を使わずに指示詞の“那”を用いて“甜”、“熟练”、“专业”的それぞれを修飾しているのは、聞き手に再認識させるためである。通常程度副詞によって修飾される表現が、話し手が事柄に対する客観的な叙述か(“非常、很”など)、主観的な評価、気持ちか(“真、～极了”など)のいずれかを表明するものであるのに対して、“那”によって修飾される表現は、聞き手の言語外知識を利用して、会話に積極的に参加していることを表明している。従って、会話で程度副詞として用いられる指示詞には誇張のニュアンスや話し手の気持ちを生き生きと描き出す効果がみられる。

四、指示詞の機能の拡張

4.1 観念指示の用法

日本語における指示詞の用法について、堀口 1992:74 は「現場指示・文脈指示のほかに、その根本の用法というべき観念指示、および、それらとは異質の絶対指示、この四種類に分けるべきである」と指摘している。⁴ 堀口 1992 はさらに観念指示を当人が知覚している事物を対象としている「知覚対象指示」と当人が観念の中に浮かべている事物を対象としている「観念対象指示」の二つに下位区分している。

- (16) あの時着ていたのは、たしかソノ服だったな。【知覚対象指示】
(17) A:君、アノ件は片付いたかい。 【観念対象指示】
B: a. はい、片付きました。
b. アレとは何ですか。 (堀口 1992:82)

表現例(16)、(17)のような「観念指示」の用法は同定する指示対象（「その服」、「あの件」）の実態には他に指すものがないという点において、現場指示・文脈指示の用法とは異質であると認められる。表現例(17)において、話し手 A が「アノ」を用いるのは、「遙かな存在として話し手の観念にある事物であるが、同じ環境にある相手も、同じ事物を遙かな存在として同じように観念に浮かべてくれる」（堀口 1992:83）という期待を前提としたものである。b は聞き手にとって推察が不可能である返事であるのに対して、a のほうは聞き手の推察が成功している。この場合には、両者が共通の情報を有しており、互いに一体感・仲間意識といった満足感が共有されることとなるのである。

第三章で言及した「比喩表現に現れる指示詞“那样”的必要性」は、まさにこの日本語指示詞における観念指示の用法と一致するものである。

4.2 機能化した指示詞

先にみた表現例(3)、(4)のような表現において、指示詞“这洋人”的“这”と“那种要成为新娘的喜悦”的“那种”がなくても、統語的に成立するのは何故なのであろうか。以下、そのことについて考察していく。

- (18) 他好像是在竭尽全力且又小心翼翼地掩饰着那种想要融入我们这所康复医

⁴ 堀口 1992 は日本語の「コ・ソ・ア」を「指示語」と称しているが、本稿では「指示詞」という用語で統一する。

院那种高素质的职业队伍的愿望。 《一个红包》

[彼は、我々のこのリハビリ病院が有している質の高い専門チームにとけこもうとする願望を、一生懸命、かつ慎重に隠しているようだ。]

(18)' 他好像是在竭尽全力且又小心翼翼地掩饰着想要融入我们这所康复医院那种高素质的职业队伍的愿望。

統語的には、表現例(18)の指示詞“那种”は後方照応の用法とみなされるのであるが、指示詞を有さない表現例(18)'との違いはどこにあるのであろうか。その違いを考察する前に、まず、歌劇《白毛女》の歌詞の一部をみてみることとする。

(19) 喜儿：北风那个吹 雪花那个飘

雪花那个飘飘 年来到

爹出门去躲帐 整七那个天

三十那个晚上还没回还

爹：卖豆腐赚下了几个钱 集上我称回来二斤面

怕叫东家看见了 揣在这怀里头四五天

[喜兒：北風がびゅうびゅう吹いており、雪が空から舞い降りている。雪が降いるこの頃お正月がやってくる。父さんが借金取りから逃げ続けてまるまる七日間経ち、大晦日の夜になってもまだ帰ってこない。]

父：豆腐を売ってすこしのお金が手に入り、市場で一キロの小麦粉を買ってた。主人に見られるのを恐れ、この四五日間ずっと懷に入れたままだ。]

表現例(19)の歌詞は父親が借金取りから逃げていて大晦日の夜になってもまだ帰ってこない、娘が外の降雪を見ながらお父さんを待ち望んでいるところから歌が始まる。談話レベルでは、発話時点における指示については現場指示と見なされ、通常“这”系が用いられる。父親の“怕叫东家看见了，揣在这怀里头四五天”における“这”は現場指示の用法と認められる。しかし、娘の歌詞にはすべて“那”系が用いられている。この場合、勿論指示詞が曲に合わせて歌のリズムを保つために加えられたものであると見ることはできるが、然らば、ここで何故にほかの語や文法手段ではなく敢えて指示詞“那”が選択されているのであろうか。ここでは指示詞の意味機能がまさにそこで生かされているとみることができる。北風の寒さ、大晦日の夜に降る雪、七日間も留守している時間の長さ、娘が一人で唯一の肉親である父親の帰りを待っているその寂しさ、こういったものはすべて人々の共感を呼び起こすことができるものであり、“喜儿”的置かれている状況を指示詞の“那”を用いることによって聞き手に連想させることができるのである。従って、ここ

では“这”であってはならず、“那”でなければならぬのである。このような“那”的用法は中国語の指示詞における観念指示であるとみることができる。

宮岡 2002:139 では英語の虚辞的な(expletive)it は統語的なスロットを充填する機能をしていると考えられ、音脚のスロットの充填であることも考えられることを指摘している。⁵ 目的語の位置に現れたり現れなかつたりする無指定の it は中国語におけるリズムの重要性を想起させる。吉川 1962:62 は「漢字の助字はあってもよく、なくてもよい語である。なくてもよい性質を利用して、せいぜい省くのは、簡潔さを作る方向である。…しかしまだ一方、あってもよいという方の性質、それを利用すればリズムを完成するものとして働く。」と述べている。リズムを合わせるために歌詞の中に現れている現代中国語の指示詞“那”が文章の中に用いられるのは一種のスロットを充填する機能を果たしていると考えられる。表現例(18)における“那种”的用法は後方照応(“愿望”を同定する)であるという解釈よりは、スロット(“掩饰着”と“想要……的愿望”的間)を充填する機能を果たしているということができよう。それによって、指示詞における間をとる機能がもたらされている。即ち、“他好像是在掩饰着……”(彼は…を隠しているようだ)の後に、いったんポーズを入れ、読者に想像する時間・空間を与え、そして最後に“愿望”(願い)という指示対象が現れる。指示詞が省略された表現例(18)' は、文全体の意味として表現例(18)とはほとんど変わらないが、“那种”が読者に与える想像空間は表現例(18)ほど広くはないといふことができよう。

4.3 “那”的定冠詞的な用法

方梅 2002 は指示詞“那”に比べ、指示詞“这”には定冠詞的な用法がみられると指摘している。方梅の挙げているその理由は、次の三つにまとめることができる。

- ① 只用在名词性成分之前，是一种“惟定”用法。(“这” + N P)
 - ② 有相应的语音形式。(この場合の“这”は zhèi と発音せず、zhè と発音する)
 - ③ 不依赖上文或言谈现场实际存在的对象，已经开始脱离了指示词的基本功能。
(指示詞における指示機能と代用機能はいずれも「どれ」という質問に答えることができるが、この場合の“这”に同定された指示対象は実在的なものではない)
- (方梅 2002:267、()内の説明は引用者による)

⁵ 宮岡 2002:140 は「この推定を支えるのは、意味・文法上の差異を伴わない it の着脱である。目的語の位置に現れたり現れなかつたりする無指定の it として、文学作品から“to fight(it), walk (it), battle (it)”などを挙げることができる。」と述べている。

方梅は“这”的定冠詞的な用法として、表現例(20)を挙げている。

- (20) 你以为呢，这雷锋可不是好当的。(方梅 2002 : 265)
[考究てみろ。雷锋なんぞにそう簡単になれるもんか]

しかし、“对一个指称属性不明确的光杆名词来说，用‘这’可以标定这个名词性成分的定指性身份，用‘那’没有这个作用。据此，认为，只有“这”有了虚化为定冠词的用法，而“那”还没有虚化为定冠词。”(方梅 2002:273、加点は引用者による)という指摘については、実際の表現例からみて、再考の余地がある。例えば、

- (21) 方俊杰的高大、英俊以及那种清纯的学生样子都是让她倾心的理由……
《我们都是陌生人》
[方俊杰のたくましい体つき、かっこうよさ、及び清々しい学生っぽさなどは、すべて彼女が魅了される理由となっている…]
(22) 学校那安静而弥漫着骄傲的青春气息里，……《我们都是陌生人》
[学校でのあの安らかさと、誇らしさの満ちている青春の息吹の中で…]

表現例(21)の指示対象の“清純的学生样子”と表現例(22)の指示対象“青春气息”は先行文脈の中に現れていないにもかかわらず、指示詞“那”を用いて同定されている。それは、大学生に対するイメージ及びキャンパス内に漂う青春の息吹はある程度人々の認識の中に予め存在しているからである。いわゆる「百科事典的な知識」(内田 2000: 118)である。すでに存在しているイメージを指示対象として同定される際、指示詞“那”を用いる用法は、英語の定冠詞 the の用法との間に共通点がみられる。例えば、

- (23) I went to a French restaurant. The waiter was very sexy.(内田 2000:119)
表現例(23)では、レストランには waiter がいるという一般常識から、先行文脈に人間を指す語句がなくても英語の場合定冠詞 the の使用が容認される。⁶
(24) Harry fell several times. He didn't like skiing at all. The snow was cold and wet.
(内田 2000:119)

⁶ 表現例(23)は中国語で表現すると、次のようになる。

“我去了一家法国餐厅。那儿的一位服务员(*那位服务员)非常有魅力。”

[私はフランス料理のレストランへ行ってきた。そこのウェイター(*そのウェイター)はとても魅力的だった。]

指示詞“那”が用いられることによって、指示対象の“服务员”が特定されている。先行文脈の中に話題のウェイターが現れない限り、“那”的使用は不可能である。

表現例(24)では、「雪」がないと「スキー」ができないため、両者は不可分の関係にある。英語の定冠詞 the はその「雪」が転んだ際触れた「雪」であるという解釈を正確に導くのに貢献している。⁷

指示詞“那”にみられる定冠詞的な用法とは、指示対象を特定する用法ではなく、話し手(作者)と聞き手(読者)の間の共通認識を指示対象として同定する際に用いられる用法を指している。

五、まとめ

指示詞の用法は、「指示」と「代用」の二つの機能が基本である。本稿では、現代中国語における指示詞の“那”を中心に、指示詞における二つの基本的な用法以外の用法について考察した。人間は、認知システム上、基本的に関連性指向にできている。⁸ 発話から得られる情報はその文脈内で活性化される既存の知識や想定との相互作用の上で何らかの結論を生み出すことになる。比喩表現の場合、周知されている事物を利用し、新しい事物をより早く相手に理解してもらうという話し手の潜在的な動機が存在しており、このことが指示詞“那”的使用を可能なものとしている。会話に現れる程度を表す指示詞について、“这么 / 那么”に限らず“那”もよく用いられるのは、聞き手の認識の中にすでに存在している知識などが“那”によって喚起され、より印象付けられるという効果を高めることができるからである。表現例(19)でみたような歌詞のリズムを整えるために用いられる指示詞“那”においても、観念指示の用法がそこに効果的に生かされている。

また、指示詞“这”にみられる英語の定冠詞的な用法については既に先行研究で指摘されているが、本稿では指示詞“那”にもその定冠詞的な用法のみられることをあわせて指摘した。

⁷ “哈利摔了好几次。他不喜欢滑雪。(因为)雪(*那雪)太凉而且湿乎乎的。”

[(ハリーは何回も転んだ。彼はスキーは嫌いだった。(なぜなら)雪(*その雪)は冷たく、しかも湿っているからだ。)

表現例(24)を中国語で表現する場合、指示対象を特定する指示詞“那”的機能により、“太凉而且湿乎乎的”は雪そのものの特徴を表現するではなく、特定された場所のがそのような性質を持っているという意味になり、文意が変わってしまう。

⁸ S&W1981 はこれを関連性の第一原則、或いは認知原則とし、人間の認知は、関連性が最大になるようにできていると指摘している。(内田 2000:114 より孫引き。筆者は原典未見)

参考文献

- 方 梅 2002 <指示词“这”和“那”在北京话中的语法化>《中国语文》第4期
呂 叔湘 1985 <近代汉语指代词>《吕叔湘文集》第3卷 学林出版社(1992)
張伯江·方梅 1995 <北京话指代三题>《吕叔湘先生九十华诞纪念文集》商务印书馆
朱 德熙 1982 《语法讲义》商务印书馆(2000)
高 范 2004 『現代中国語指示代名詞“这”“那”に関する研究』名古屋大学大
学院国際言語文化研究科 修士論文
—— 2006 「中国語の指示代詞“这/那”的虚化について」『多元文化』(名古
屋大学国際言語文化研究科)第6号
吉川幸次郎 1962 『漢文の話』筑摩書房(1986)
堀口和吉 1992 「指示語の表現性」『日本語研究資料集』第1期(第7巻I)ひつじ
書房
牧野美奈子 1993 「中国語の指示詞とテクスト」『中国語学』240号
輿水 優 1985 『中国語の語法の話—中国語文法概論』光生館
澤田治美 1993 『視点と主観性—日英助動詞の分析—』ひつじ書房(1995)
内田聖二 2000 「定冠詞の機能」『言語研究における機能主義—誌上討論会—』
ろしお出版
宮岡伯人 2002 『「語」とはなにか—エスキモー語から日本語を見る—』三省堂
Sperber, D. and D. Wilson 1981 “Irony and the use-mention distinction” in P. Cole(ed.)
Relevance Pragmatics. New York: Academic Press. pp. 295–317

用例出典

- 《高级汉语口语—话题交际—》北京语言大学出版社
《一个红包》(《青年文摘》2006年第6期)
《白毛女》(北风吹) 作词: 贺敬之、丁毅 作曲: 马可
董懿娜《玻璃心的日子》华龄出版社
董懿娜《我们都是陌生人》《作家杂志》2002年第12期
杨沫《青春之歌》北京出版社
王朔《刘慧芳》大众文艺出版社
梁晓声《父亲》中国画报出版社
兰陵笑笑生《金瓶梅》<http://www.chvi.net/blog/post/73.html>